

2008年 10月28日

財務大臣

中川 昭一 様

下川自然を守る会会長 千葉 永二
サンルダム建設を考える集い代表 渋谷 静男
名寄サンルダムを考える会代表 竹内 和郎
サンル川を守る会代表 橋本 泰子
ネットワーク旭川地球村代表 山城 えり子
北海道の森と川を語る会代表 小野 有五
大雪と石狩の自然を守る会代表 寺島 一男
旭川・森と川ネット21代表 平田 一三
NPO法人 渚滑川とトラウトを考える会 理事長 扇谷 勝
(社) 北海道自然保護協会会長 佐藤 謙

北海道開発局のサンルダム本体工事費用を予算概算要求に組み込まないこと

サンルダム建設計画は、2006年12月に終了した天塩川流域委員会の意見提出を受けて、北海道開発局が策定した天塩川河川整備計画に基づいておりますが、多くの疑問が残されたまま進行しています。流域委員会では、名寄川の堤防強化と河川改修で治水が可能という意見とサンルダムが必要という意見が平行線のまま終了し、サクラマス保全については専門家の意見を聞いて進めることとなりました。

私たちは、大型ダムでサクラマス保全が成功した例はないので、サクラマスが保全される根拠を示すよう要望書を提出していますが、いまだに回答はありません。最近になってサンルダム建設予定地周辺では、環境省が絶滅危惧Ⅰ種としているコガタカワシンジュガイが見つかりました。ダムによる環境変化によってこの種が保全されなくなるという私たちの懸念に対する回答もなされていません。

このように疑問点が多々残されているのは、北海道開発局や天塩川流域委員会が私たちとの話し合いを一貫して拒否してきたからです。

このような中で、北海道開発局がサンルダム本体建設を実質的にスタートさせる概算要求を行ったことは、現在審議を行っている魚類専門家会議を無視した暴挙であり、とうてい容認できるものではありません。また、天塩川河口の漁業協同組合もサンルダム建設に同意していません。以下に示したサンルダム建設をめぐる疑問点および別紙の詳細説明について目を通していただき、住民団体や自然保護団体の懸念が払拭されないまま、ダム本体工事費を概算要求に組み込むことのないよう要望いたします。

21世紀は環境の世紀といわれています。環境が保全されなくして、人類の生存はあり得ません。北海道の美しい自然環境が、生活、文化、産業の土台です。北海道出身の財務大臣は北海道の自然についてよくご存知のはずです。将来を見据えたご判断を要望いたします。

サンルダム建設をめぐる疑問点

－サンルダム本体工事概算要求をすべきでないとする根拠－

私たちは、本年9月5日に北海道開発局長に、サンルダム本体工事着工予算計上の撤回を求め、9月25日に回答してもらおうよう要望しましたが、いまだに回答がありません。

本体工事概算要求の撤回を求める根拠の詳細は別紙詳細説明資料に述べているので参照していただくことにして、ここでは簡潔に述べます。

治水問題

開発局は、サンルダムが天塩川全体の治水に貢献するように述べていますが、実際には名寄市のための治水であり、名寄川の治水を検討することが必要です。

1. 開発局は、戦後最大の洪水に匹敵する降雨がある場合に、名寄市周辺に約4000億円の被害が生じるとしているが、戦後最大の洪水による実績最大被害額は約70億円であり、被害額想定が過大であり、費用対効果に疑問がある。
2. 戦後最大の洪水時に名寄川堤防は決壊していない。流域委員会でこの事実は説明されていない。支流の堤防強化や内水氾濫防止で洪水を防ぐことができるかどうか審議されていない。
3. 名寄川の堤防高は多くの場所で計画流量水位より高いので、一部計画流量水位より低い場所について手当てをすればダムは不要と考えられる。
4. サンルダムを建設しても、計画流量水位は一部区間で計画高水位より高いので、開発局がダムによって洪水を防ぐことができるということはない。
5. 名寄川堤防の整備・強化と河川改修で名寄川の洪水を防ぐことができる問題について流域委員会で十分論議されていないので、論議しなおすべきです。

利水問題

1. サンルダムでは灌漑用水が設定されていないので、農業用水を期待することはできません。
2. サンルダムからの水道水取水量は極めてわずかであり、ダムを必要とする根拠になりません。
3. サンルダムで期待される発電量は極めてわずかであり、ダムを必要とする根拠になりません。
4. ダムによる流れの遮断が、流水の正常な機能を失わせるものです。

サクラマス問題

1. 今まで建設されたダムでサクラマス保全が成功した例はありません。サンルダムでサクラマス保全が成功する可能性は示されていません。
2. サクラマス保全のためにサンルダムで導入しようとしている美利河ダム方式の保全効果は示されていませんし、放流スモルト（サクラマス幼魚）の河川回帰も調査されていません。
3. サンルダムにおけるサクラマス保全対策の全体像がない中で強行した魚道試験は、成功する見通しのない事業に投資するようなもので、税金の無駄遣いです。

住民や自然保護団体との話し合い問題

1. サンルダムへの疑問を提出し、話し合いを求めても、開発局は応じませんし、さまざまな問題について説明責任を果たしていません。河川法の考えから逸脱しています。

流域住民意見の反映

1. 開発局が実施した流域住民アンケートで、ダムが必要と述べたのは7%に過ぎません。開発局には住民意見を重視してダム建設を考える視点がありません。